

高校生の自我同一性の確立及び進路選択に対する自己効力が
進路選択時における学習動機づけに与える影響

専攻 人間教育専攻
コース 幼年発達支援コース
氏名 木村 信貴

指導教員 田村 隆宏

目的 本研究の目的は、高校生の進路選択時における学習動機づけの様相を探り(研究Ⅰ)、自我同一性の確立・進路選択に対する自己効力との関連を検討することである(研究Ⅱ)。具体的には、進路選択時という普段の学習とは異なるであろう動機づけの様相を速水・田畑・吉田(1996)の尺度から探り、桜井(1991)の定義を見直し、新たな定義を見出すこと。Waterman,A.S.&Waterman,C.K.(1976)や木村(2008)によって示唆されているように、自我同一性が確立されている者は内発的に動機づけられているかを検討すること。さらに、浦上(1993)によって示唆されていることから、職業選択に対する自己効力の高いものは内発的に動機づけられているかを検討することである。

方法 F 県立 N 高等学校の 3 年生 145 名(有効回答数 126 名)に対して 2009 年 10 月に質問紙による調査を依頼した。動機づけ尺度については、研究Ⅰの因子分析にのみ、別年度の高校 3 年生 125 名に対してすでに実施した同一のものと併せて分析を行う。質問紙はフェイスシートと 3 つの尺度によって構成された。フェイスシートは性別・コース・進路決定に関する質問によって構成された。

3 つの尺度は(1)速水・田畑・吉田(1996)動機づけ尺度, 28 項目 5 件法。(2)加藤(1983)自我同一性地位判定尺度, 12 項目 6 件法。それぞれの地位への分類は、加藤(1983)の研究に基づき行った。(3)浦上(1995a,b)進路選択に対する自己効力尺度, 30 項目 4 件法である。

研究Ⅰ 結果 研究Ⅰにおいて、これまでの学習動機づけの分類とは異なる新たな 3 つの動機づけが見出された。それぞれを「内発的動機づけ」・「外的他者統制動機づけ」・「外的自己統制動機づけ」とし、その信頼性と妥当性が確認された。また、進路・自己決定とそれぞれの動機づけの関連を検討した結果において、大学進学者は専門学校進学者、就職者のいずれよりも、内発的動機づけの値が高かった。また、大学進学者は専門学校進学者より外的自己統制動機づけ高かった。

考察 大学進学者は専門学校進学者・就職者より内発的動機づけの値が高かったことは、大学進学者にはこれから先も勉強していくという明確な意思や覚悟があるからであろう。また、大学進学者は専門学校進学者より外的自己統制動機づけの値が高かったことは専門学校進学者よりも大学進学

方が不安は大きいのではないかと推察される。この結果は専門学校進学者より大学進学者の方が試験勉強に対する「不安を取り除いておきたい」という気持ちや「勉強しておくべき」という気持ちが高く、より高い自己統制が必要とされるという結果といえよう。

研究Ⅱ 結果 自我同一性地位判定尺度の下位尺度である、現在の自己投入・過去の危機・将来の自己投入の希求のそれぞれの値が自己関与的自己効力と対処的自己効力に与える影響を検討するため、変数減少法による重回帰分析を行った。その結果、現在の自己投入を行っている者は自己関与的自己効力が高く、将来の自己投入の希求を行っている者は自己関与的自己効力が高い傾向があった。また、現在の自己投入を行っている者は対処的自己効力が高かった。次に、これらの変数が研究Ⅰによって明らかとなった3つの動機づけに与える影響について、変数減少法による重回帰分析を用いて検討した。その結果、将来の自己投入の希求を行っている者は内発的動機づけが高く、自己関与的自己効力が高い者は内発的動機づけが高い傾向があった。さらに、将来の自己投入の希求を行っている者は外的自己統制動機づけが高く、過去の危機を体験した者は外的自己統制動機づけが高い傾向があった。

考察 まず、内発的動機づけに与える影響について考察する。将来の自己投入の希求という「私はこのようにありたい」という思いを持つことが、

「なりたい職業があるから、今勉強している」というように、職業選択とそれに向かう動機づけをつなげることができていると考えられる。また、進路選択に対する自己効力の強いものは、進路選択行動を活発に行う(柏尾,2009)ということからも内発的動機づけという自己決定の高い動機づけが、自分と向き合って「うまくできる」と予測する行動によって導かれたといえよう。次に外的自己統制動機づけに与える影響について考察する。外的自己統制動機づけは内発的動機づけほど自己決定が高い動機づけとはいえないが、自己を統制するといった内的な部分を有するため、将来自分が打ち込めるものを探し、いろいろな可能性から将来を選択しようとしていることで、勉強しないと不安であるという意識や、勉強しないと自分が困るという意識が高まると予測できる。この結果は、自立できる子どもを育てることを目標とするキャリア教育の有用性を示唆していると考えられる。

以上、研究Ⅰにより、高校生の進路選択時の学習動機づけの様相が明らかとなり、研究Ⅱによって、自我同一性の確立において重要とされる自己投入が進路選択に対する自己効力に影響を与え、自己投入・自己効力が内発的動機づけ・外的自己統制動機づけに影響を与えるということが明らかとなった。